

ぬしま鱈をPR



▲ぬしまフェアで、ぬしま鱈を広くPR。

「ぬしまフェア」が7月14日に淡路ファームパークイングランドの丘で開かれ、沼島で獲れた鱈を広くPRしました。地元の漁師が調理して、焼き魚や、刺身、サヨリのフライの振る舞いが行われ、子どもから大人まで、沼島の魚のおいしさを味わってもらいました。



▲島外からの来場者もその味に大満足

また、鱈の直売も行われ、約80パックが数十分で完売となる盛況ぶりでした。沼島の近海は鱈や鯛などさまざまな魚が生息する豊かな漁場です。周辺で獲れる鱈は、「ぬしま鱈」と呼ばれて背中に黄色みがかっているのが特徴で、一本釣りで網の傷がつかず、品質の良いまま水揚げされます。東京などに出荷し高い評価を得ています。当日、会場で味わたった人たちからも、「身に脂がのって、甘みもあっておいしい」など好評を得ていました。

西オーストラリア州を訪問



▲ワナラー市議会議場で記念撮影する訪問団

兵庫県と西オーストラリア州の姉妹提携30周年を記念して平成23年に同州から兵庫県にコアラの赤ちゃん4頭が寄贈されたことから、兵庫県では淡路の地場産業の一つである淡路瓦を用いたモニュメントを同州に寄贈しました。

完成した同モニュメントの寄贈式に出席するため県訪問団と共に南あわじ市からも5月28日～6月2日までの日程で川野副市長と淡路ファームパークイングランドの丘の職員ら4人が西オーストラリア州を訪問しました。5月30日は寄贈された4頭のコアラのふるさとである同州ワナラー市のロバーツ市長を表敬訪問しました。川野副



▲淡路瓦を使用したモニュメントの寄贈式

市長は「コアラを縁に引き続き交流していきたい」と話し、イングランドの丘の職員からは寄贈されたコアラの成長と子どもが生まれたことを報告しました。5月31日は同州の州庁舎近くで完成した瓦モニュメントの寄贈式に出席しました。会場では同州コリン・バーネット首相は「2年前に淡路島を訪れた時はとても楽しかった。また観光で訪れたい」と話しました。寄贈された瓦で輪を制作した同モニュメントは、兵庫県と西オーストラリア州の交流の輪を広げていきたいとの期待が込められていました。今回の訪問は両県州にとつただけでなく、市にとつても有意義な訪問となりました。

お楽しみ抽選会が開催されました



▲当選者を発表する中田市長と志智会長(右)

6月22日～24日に行われたGENKI応援振興券の販売にあわせて、当日会場ではお楽しみ景品プレゼントの応募が行われました。多数の応募があった中から当選者を選ぶ抽選会が市役所中央庁舎で7月2日、中田市長と志智商工会長により実施されました。抽選会では中田市長と志智会長が交互に応募箱から応募券を引き、「あわじうずしお温泉美人肌セット」、「淡路手

延そうめん・秘伝のつゆセット」、「淡路人形浄瑠璃賞券・うずしおクルーズ乗船特別セット券(ペア)」の景品当選者をそれぞれ40人、30人、25人選びました。当選者の皆さん、おめでとうございます。ありがとうございました。

GENKI応援振興券の有効期限は12月31日(火)までです。お早めにご利用ください。

昔ながらの手植えで田植えに挑戦

吉備国際大学で6月24日、学生と教員70人が初めてとなる「さなぶり祭」を行ないました。さなぶりとは、田植えを終え水田の神様に豊作を祈願するという昔からの風習です。この日、学生たちは先生の指導を受けながら、まず大きく育てられたキヌヒカリの苗床から苗を外す「苗取り」の作業を実施。その後はだして水田に入り、印が付けられたロープに沿って田植えを行い

ました。ほとんどの学生が田植えの経験がなく、泥だらけになりながらも力をあわせて約1時間で12アールの水田に苗を植えました。田植えを行った後、キャンパス内にあるほこらで豊作を祈願。そしてキャンパス中庭を会場に、田植えの労をねぎらう食事会を行って、互いの親睦を深めました。学生からは、今から秋の収穫が待ち遠しいといった声が聞かれました。



▲田植えを行う地域創成農学部学生たち

ふれあい市長室 伝統文化振興による地域活性化

南あわじ市長 中田勝久

行政懇談会を6月29日の南淡地域、6月30日の緑地域、7月1日の西淡地域、7月3日の三原地域と計4回開催させていただきました。自治会長さんを始めとする各団体の役員の方を対象に、案内させていただきますが、夜の開催にも関わらず毎回約100名の方々、延約400名の方々にご出席をいただきました。特に有難うございました。特に質疑応答の時間には、市政に対して熱心なご質問やご提言をいただき、ご出席の皆さんの関心の高さに市政を預かるものとして、幹部職員ともど

も身が引き締まる思いがいたしました。今後も行政として丁寧な説明と、広報、ケーブルテレビ、ホームページ等を使つたきめ細かな情報発信に努めてまいります。また、懇談会でいただいた貴重なご意見・ご提言については真摯に受け止め、今後の施策に活かしていきたいと考えております。さて、新聞によりますと淡路県民局が島内の今年1～3月の主要経済・金融関連指標をまとめ、淡路ファームパークや淡路人形座を始めとする島内主要観光施設6施設の入場者は昨年同期に比べて12.5%増加し、31万6000人になったとの報道がありました。要因の一つには、昨年8月にオープンした淡路人形座の入場者が、ほぼ倍増したことがあるとのことです。淡路人形座では本年6月、島内では実に16年ぶりに「絵本太功記十段目」(尼ヶ崎の段)の特別公演を行いました。昨年8月の新館移転以降、こういった特別公演



▲行政懇談会で話す中田市長

を月に1回行ったり、人形太夫・三味線をわかり易く解説するレクチャーを実施するなどの運営努力の成果が出てきたと嬉しく思っています。この数字が一過性のもので終わらないよう、今年度は、県民局と連携し小学校高学年・中学生を対象に淡路人形浄瑠璃体験教室のバスの助成を行い、子どもの中から淡路人形浄瑠璃に触れ合う機会を少しでも増やすことができるようにしてまいります。加えて、本年は12月に淡路人形サミット&フェスティバルが当市で開催されます。全国に「淡路人形浄瑠璃」をPRする絶好の機会だと考えております。今後も実績を着実に積み重ね、淡路人形浄瑠璃「淡路人形座」が今以上に地域に欠かせないものとなるよう市もサポートしていきます。

市民の皆さんにおかれましては、淡路人形浄瑠璃を始めとした南あわじ市の豊かな伝統文化の振興が、地域の活性化と発展に繋がっていきますよう、今後も施策へのご理解とより積極的なご協力をいただきますようお願い申し上げます。